

LOBO 早期景気観測

1月分 日商調査日 1月7日～17日
当所調査日 1月7日～21日

LOBO調査とは

全国各地の商工会議所が参加して、日本商工会議所が実施する全国規模の早期景気観測調査。当所ではさらに、会員企業40社の皆さまにも調査へのご協力をいただき、より地域に根差した調査を実施。

日商調査

1月の全産業DI ▲18.2
(前月比+2.4ポイント)

○中小企業の景況感

自動車関連で生産回復の動きが見られる製造業や、消費者マインドの回復により年初の初売りが好調だった小売業の業況感が改善した。

一方、新型コロナウイルスのオミクロン株の感染拡大に伴い、飲食業、宿泊業などのサービス業では、イベントの中止や予約のキャンセルが相次ぎ、客足が急減した。

また、幅広い業種で、部品供給制約による納品遅れ、原油価格を含む資源価格や原材料費の上昇によるコスト増加が続いており、中小企業の業況改善に向けた動きは継続も、足元で鈍さが見られる。

○先行き

先行き見通しDIは▲27.4（1月比▲9.2ポイント）。オミクロン株の感染急拡大による営業時間短縮や人流抑制などの活動制約

春の観光需要喪失を不安視する声は多い。

また、部品供給制約の長期化、資源価格の高騰、円安、人件費上昇などのコスト増加分の価格転嫁の遅れによる業績悪化への懸念もあり、中小企業の景況感は先行きへの警戒感が強まり、厳しい見方となっている。

【関東ブロックの業況についてのコメント】
年末年始はスーパーマーケットからの受注が好調だったものの、小麦粉などの原材料費や燃料費の上昇が続いており、先行きに対する不安感は拭えない（食料品製造業）。

順調に観光客や団体客の予約が増えていた矢先にオミクロン株が全国的に感染拡大し、軒並みキャンセルとなつてしまった。今後、まん延防止等重点措置の適用地域が拡大すれば、一段の売上減少が予想され、先行きが不安である（飲食業）。

三所調査

「DIは減少。オミクロン株の感染拡大による影響か」

全体平均DIは ▲8.6で前月に比べ4.7ポイントの悪化。項目別では、売上前年▲18.6ポイント、売上先行▲18.6ポイントといずれも悪化し、仕入項目は依然として低水準となっている。

寄せられたコメントは、「オミクロン株の拡大による市場の冷え込みが懸念される」（広告代理業）、「仕入単価は上昇するが売値を上げることができず業績悪化」（靴卸売業）といった、オミクロン株による影響と仕入単価上昇による業績悪化への不安が伺える。

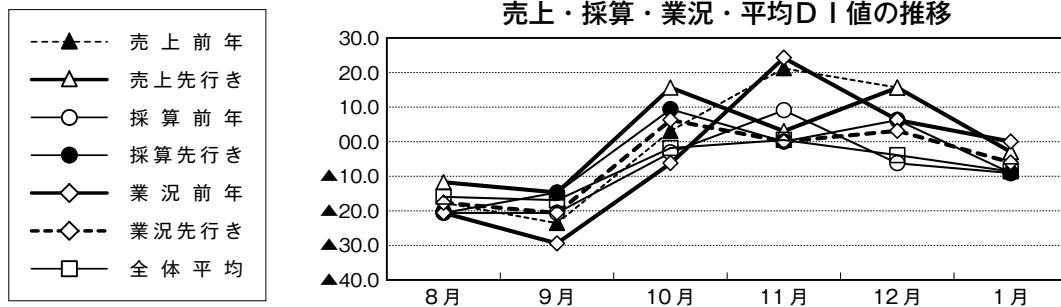
水戸商工会議所会員企業LOBO調査(DI値推移)

(全産業)

(サンプル数40社)

項目	令和3年		令和3年				令和4年
	1月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
売上前年	▲ 60.7	▲ 17.6	▲ 23.5	3.1	21.2	15.6	▲ 3.0
売上先行き	▲ 57.1	▲ 11.8	▲ 14.7	15.6	3.0	15.6	▲ 3.0
採算前年	▲ 50.0	▲ 20.6	▲ 20.6	▲ 3.1	9.1	▲ 6.3	▲ 9.1
採算先行き	▲ 53.6	▲ 20.6	▲ 14.7	9.4	0.0	6.3	▲ 9.1
仕入前年	▲ 21.4	▲ 50.0	▲ 47.1	▲ 53.1	▲ 51.5	▲ 65.6	▲ 51.5
仕入先行き	▲ 32.1	▲ 41.2	▲ 38.2	▲ 46.9	▲ 57.6	▲ 56.3	▲ 48.5
社員前年	▲ 3.6	11.8	11.8	18.8	21.2	18.8	15.2
社員先行き	▲ 3.6	5.9	14.7	25.0	21.2	18.8	27.3
業況前年	▲ 53.6	▲ 20.6	▲ 29.4	▲ 6.3	24.2	6.3	0.0
業況先行き	▲ 57.1	▲ 17.6	▲ 20.6	6.3	0.0	3.1	▲ 6.1
資金前年	▲ 39.3	0.0	▲ 17.6	0.0	15.2	▲ 6.3	▲ 9.1
資金先行き	▲ 35.7	▲ 8.8	▲ 2.9	9.4	0.0	3.1	▲ 6.1
全体平均	▲ 39.0	▲ 15.9	▲ 16.9	▲ 1.8	0.5	▲ 3.9	▲ 8.6

売上・採算・業況・平均DI値の推移



※DI値(景況判断指数) = (増加・好転等の回答数 - 減少・悪化等の回答数) / 全回答数 × 100。ゼロを基準として、プラス値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナス値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものでなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりや意味するもの。